



第77期
業務のご報告

令和3年4月1日～令和4年3月31日



このまちの夢がきこえる

水戸信用金庫

ごあいさつ

向夏の季節を迎え会員の皆様には、
ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。
ここに第77期の業務のご報告を兼ね、
ごあいさつを申し上げます。



水戸信用金庫 理事長
埴 由博

事業方針

当金庫は、令和2年度より3カ年の「中期経営計画2022」をスタートし、“みとしんの未来を創る3カ年”と位置づけ、目指すべき金庫像の実現に向けて、4つの基本戦略に基づいた施策に取り組んでおります。特に令和3年度は新型コロナウイルスの度重なる感染拡大により大きな影響を受けているお客さまへの支援に力を入れて取り組んでまいりました。

今後、経済活動全体は回復に向かうものと思われませんが、しかし、新型コロナウイルスの影響に加え、円安やウクライナ情勢等を受けた輸入価格、資源価格の上昇等、懸念は多くの面でみられます。そのような中、当金庫は対話を通してお客さまの悩みや課題を把握し、解決に向けた適切な商品、サービスをご提案する等、お客さまへのサポートを進めてまいります。

【中期経営計画2022(令和2年度～令和4年度)の概要】

目指すべき金庫像

「お客さまと共に考え、共に行動し、共に成長することにより、お客さまと喜びを分かち合い、お客さまから揺るぎない信頼と支持を得る。」

4つの基本戦略

- I. 真のお客さま志向の実現に向けた営業体制を構築する
- II. 将来にわたる安定経営を目指して持続可能かつ強固な経営体質を構築する
- III. 経営環境の変化に柔軟に対応できる人財の育成に取り組む
- IV. 内部管理態勢および法令等遵守態勢の強化を図る

経済・金融情勢

令和3年度の国内経済は、新型コロナウイルスの感染拡大により、度重なる緊急事態宣言発出等で様々なイベント等が自粛となり、インバウンド需要が期待された東京オリンピック・パラリンピックも無観客での開催になる等、大きな影響を受けました。

当金庫の主な営業エリアである茨城県の経済についても、対面を伴う飲食・宿泊等のサービス業を中心に大きな影響を受けましたが、緊急事態宣言の解除後は、行動制限の緩和等を背景に経済活動が徐々に再開し、輸出や個人消費を中心に景気の持ち直しに向けた動きが見られました。

金融情勢については、日本銀行による大規模な緩和政策が維持されたことで低金利環境が継続しました。政府の経済対策により景気の下支えが行われたことや経済再開の期待感もあり、日経平均株価は一時3万円の大台を超えましたが、年度後半は変異株を含む感染再拡大や半導体不足による供給制約の長期化、資源価格の高騰等への懸念から下落に転じました。

今後は、円安やウクライナ情勢等を受けた輸入価格や資源価格の上昇による日本経済への影響が懸念されます。しかし、行動制限の緩和が進むとともに、個人消費の

持ち直しが本格化すること、政府による経済対策や金融政策の効果が期待されること等により、経済活動全体が回復に向かうものと見られます。

業績

預金は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う先行きへの警戒感などから手元現金預金を多めに保有しようとする動きが見られ、個人のお客さまを中心に増加し、期末残高は1兆1,771億円余(前年比+76億円、+0.65%)となりました。

貸出金は、新型コロナウイルス感染症に対応するための資金をはじめ、事業内容や成長性を重視する事業性評価やお客さまの様々なニーズにお応えする課題解決型営業を展開したことにより事業性貸出金が増加したこと、住宅関連業者との連携強化や金利割引制度の活用により住宅ローンが増加したこと等により、期末残高は、4,585億円余(前期比+3億円、+0.07%)となりました。

損益については、貸出金残高は増加したものの、利回りの低下が影響し貸出金利息収入が減少したこと、高利回り債券の満期償還に伴い有価証券利息配当金が減少したこと等により、経常収益は155億円余(前期比△9億円、△5.48%)となりました。また、店舗形態の見直しや人員の減少により経費が減少した一方、貸倒リスクに備えるための引当金を積み増したこと等により、経常費用は144億円余(同△7億円、△4.69%)となりました。その結果、経常利益は11億円余(同△1億円、△14.72%)、当期純利益は10億円余(同+0億円、+0.34%)となりました。

事業の展望

令和4年度は、行動制限の緩和が進むとともに、個人消費の持ち直しが本格化すること、一部にみられた供給制限の影響が薄まること、政府による経済対策や金融政策の効果が期待されること等により、経済活動全体が回復に向かうものと見られます。しかしながら、新型コロナウイルスの感染再拡大や、円安やウクライナ情勢等を受けた輸入価格や資源価格の上昇による影響が懸念されます。

また、新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけに、従来の生活様式や働き方が変化し、金融機関の社会的役割やお客さまのニーズも変化しております。当金庫では地域社会の発展に貢献し、お客さまの幅広いニーズに対応するため、事業先への訪問活動や事業性評価等を通じ、お客さまとのより深いリレーションを構築するとともに、従来の対面によるご提案に加え、デジタル技術の活用を通して将来にわたってお客さまに満足いただける商品やサービスをお届けしてまいります。

これからも、私ども“みとしん”は、お客さまに寄り添いながら地域金融機関としての責務を果たし、この苦境をお客さまと共に乗り越えていきたいと考えております。

貸借対照表

第77期末 令和4年3月31日現在

(単位:百万円)

科目	金額	科目	金額
(資産の部)	百万円	(負債の部)	百万円
現金	12,247	預金積金	1,177,138
預け金	437,830	当座預金	8,489
買入金銭債権	11,245	普通預金	506,679
金銭の信託	1,252	貯蓄預金	1,990
有価証券	393,578	通知預金	3,112
国債	15,084	定期預金	637,600
地方債	155,615	定期積金	13,659
社債	109,938	その他の預金	5,606
株式	465	借入金	98,775
その他の証券	112,475	借入金	98,775
貸出金	458,544	債券貸借取引受入担保金	8,457
割引手形	308	その他負債	1,612
手形貸付	33,308	未決済為替借	239
証書貸付	404,451	未払費用	757
当座貸越	20,475	給付補填備金	4
その他資産	7,838	前受収益	219
未決済為替貸	109	払戻未済持分	44
信金中金出資金	5,700	リース債務	80
未収収益	948	資産除去債務	112
その他の資産	1,080	その他の負債	154
有形固定資産	14,400	役員退職慰労引当金	21
建物	5,388	睡眠預金払戻損失引当金	63
土地	7,892	保証協会偶発損失引当金	148
リース資産	74	子会社等支援損失引当金	230
建設仮勘定	118	債務保証	691
その他の有形固定資産	926	負債の部合計	1,287,140
無形固定資産	1,200	(純資産の部)	
ソフトウェア	944	出資金	11,558
その他の無形固定資産	255	普通出資金	6,808
前払年金費用	112	優先出資金	4,750
繰延税金資産	454	資本剰余金	4,750
債務保証見返	691	資本準備金	4,750
貸倒引当金	△14,464	利益剰余金	20,387
(うち個別貸倒引当金)	△13,408	利益準備金	5,277
		その他利益剰余金	15,109
		特別積立金	13,130
		当期末処分剰余金	1,979
		会員勘定合計	36,695
		その他有価証券評価差額金	1,096
		評価・換算差額等合計	1,096
		純資産の部合計	37,791
資産の部合計	1,324,931	負債及び純資産の部合計	1,324,931

損益計算書

第77期 令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(単位:千円)

科目	金額	金額
経常収益		15,559,747
■資金運用収益	13,236,431	
貸出金利息	8,940,908	
預け金利息	534,676	
有価証券利息配当金	3,590,162	
その他の受入利息	170,684	
■役務取引等収益	1,357,508	
受入為替手数料	496,657	
その他の役務収益	860,850	
■その他業務収益	92,923	
国債等債券売却益	36,343	
その他の業務収益	56,579	
■その他経常収益	872,883	
償却債権取立益	717,525	
株式等売却益	53,601	
金銭の信託運用益	26,558	
その他の経常収益	75,197	
経常費用		14,445,730
■資金調達費用	250,317	
預金利息	98,147	
給付補填備金繰入額	3,595	
借入金利息	148,074	
債券貸借取引支払利息	498	
■役務取引等費用	1,392,428	
支払為替手数料	70,466	
その他の役務費用	1,321,961	
■その他業務費用	4,621	
国債等債券売却損	2,391	
その他の業務費用	2,230	
■経費	10,440,489	
人件費	6,330,780	
物件費	3,789,177	
税金	320,530	
■その他経常費用	2,357,874	
貸倒引当金繰入額	1,809,406	
貸出金償却	253,604	
株式等売却損	54,579	
金銭の信託運用損	5,255	
その他資産償却	43,067	
その他の経常費用	191,959	
経常利益		1,114,016
特別利益		952
■その他の特別利益	952	
特別損失		64,861
■固定資産処分損	15,795	
■減損損失	49,065	
税引前当期純利益		1,050,107
法人税、住民税及び事業税	23,575	
法人税等調整額	△62,451	
法人税等合計		△38,876
当期純利益		1,088,984
繰越金(当期末残高)		890,450
当期末処分剰余金		1,979,434

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

剰余金処分

第77期 令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(単位:円)

科目	金額
当期末処分剰余金	1,979,434,385

これを下記の通り処分します。

剰余金処分量	1,063,192,866
利益準備金	110,000,000
普通出資に対する配当金(年1%)	67,692,866
優先出資に対する配当金(年0.9%)	85,500,000
特別積立金	800,000,000
(うち優先出資消却積立金)	(800,000,000)
繰越金(当期末残高)	916,241,519

(注)優先出資に対する配当率0.9%は発行価額(95億円)に対する割合です。
(貸借対照表上の優先出資金(47億5千万円)に対する割合としては1.8%となります。)

左記の通り相違ありません。

令和4年6月

一 水戸信用金庫 一

理事長	埴 由博	常勤理事	照沼 政彦
専務理事	居村 徹也	常勤理事	寺門 喜久夫
専務理事	桑名 尚身	常勤理事	酒井 充
常務理事	小橋 昭弘	常勤理事	助川 安弘
常務理事	飯村 次男	理事	長野 正紀
		理事	岡田 幸彦
常勤監事	廣瀬 千秋		
監事	櫻井 敏行		
監事	福田 敬士		

庶務概要

総代会

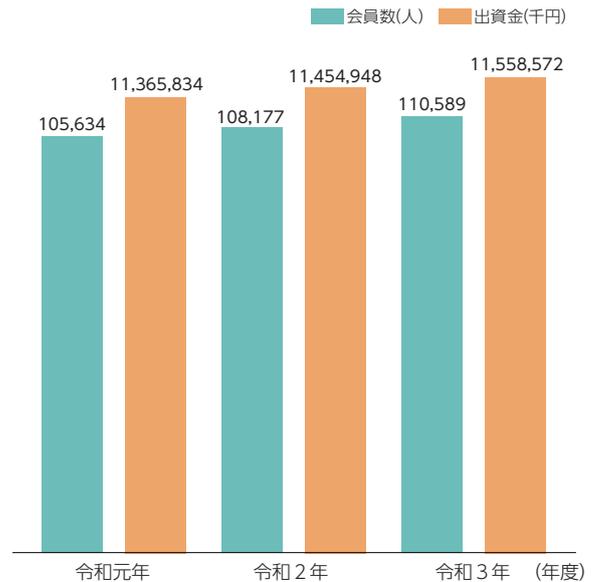
令和3年6月25日 第76期通常総代会を
ホテル・ザ・ウエストヒルズ・水戸
において開催し、下記議案を承認可決

- 第1号報告 第76期 業務報告・貸借対照表・
損益計算書報告の件
- 第1号議案 第76期 剰余金処分案承認の件
- 第2号議案 会員の法定脱退の件
- 第3号議案 任期満了に伴う総代候補者
選考委員改選の件
- 第4号議案 理事補充選任の件

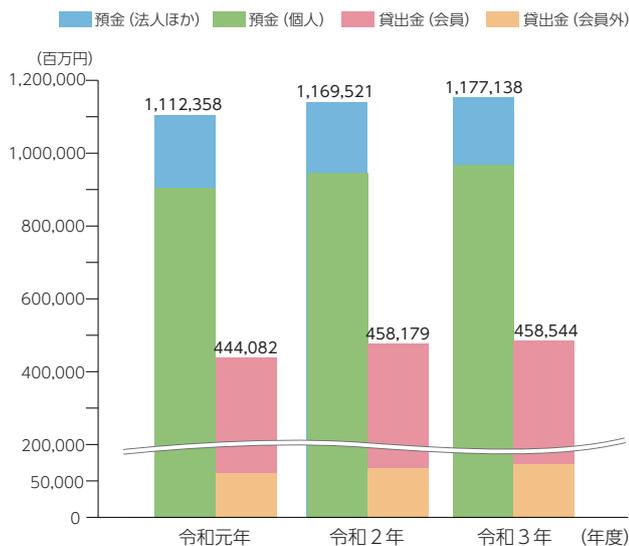
登記事項

令和3年4月13日 出資口数および出資総額の変更登記

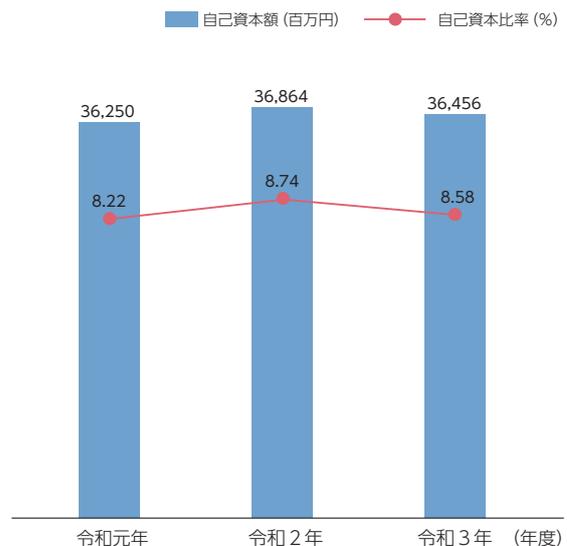
会員・出資金の推移



預金・貸出金の推移



自己資本額・自己資本比率の推移



当金庫の概要 (令和4年3月31日現在)

- 出資金 11,558百万円
- 自己資本額 36,456百万円
- 役員数 908名
- 預金 1,177,138百万円
- 貸出金 458,544百万円
- 店舗数 66店舗
- 会員数 110,589人
- 自己資本比率 8.58%